



資料4

市民と森林をつなぐ国際森林年の集い報告 (地方自治体等と連携した全国的記念行事)

平成24年1月11日 国際森林年国内委員会資料
東京農業大学農山村支援センター

市民と森林をつなぐ国際森林年の集い

- × 地方団体等と連携したシンポジウムを7月～11月にかけて、北海道から九州の全国15カ所で展開。3700人以上参加。
- × 映画「森聞き」でも紹介された「森の名人」の知恵や技術を次世代に伝承。
- × 東北地方では震災復興の要素を加えて実施。
- × 「国際森林年推進事業」の取組の一つ。
- × 国際森林年国内委員も10名参加。林野庁長官、作家の三浦しをん氏、国際森林年子ども大使・葉っぱのフレディらも参加。



市民と森林をつなぐ国際森林年の集い



- × テーマは「次世代への継承」
- × 森林・林業・山村の知恵や技術、様々な活用について、若い世代が接する機会を増やす、若い世代への継承について考える機会になるような記念行事を企画。
- × 地方自治体等の特色を生かした取組みに留意。



真庭：高校生による小学生への環境教育(バイオマス)事例報告



市民と森林をつなぐ国際森林年の集い



屋外での講演(京都)や小学生の活動発表(石川)、自然観察館での開催(大阪)、森の恵みの歌の合唱(盛岡)なども



2011・国際森林年

市民と森林をつなぐ国際森林年の集い

- × 「森を歩く」イベントのほか、映画「森聞き」の上映会、森林セラピー体験、ノルディックウォーキング体験、乗馬森林浴体験等も実施。



宮崎：海岸林でのノルディックウォーキング



紋別：乗馬森林浴体験

市民と森林をつなぐ国際森林年の集い



2011・国際森林年



森を歩く(滋賀)、
木を切り、植える
(盛岡)



森林セラピー(信濃
町)、バードウォッチ(大
阪)、ゲーム機を使った
自然観察のまとめ(石
川)

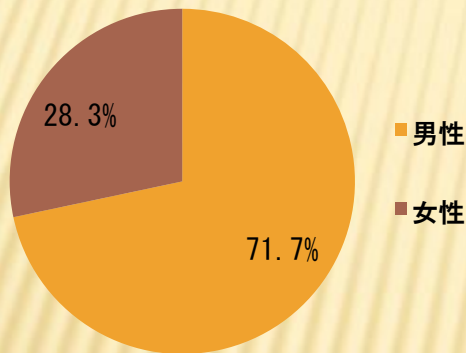


2011・国際森林年

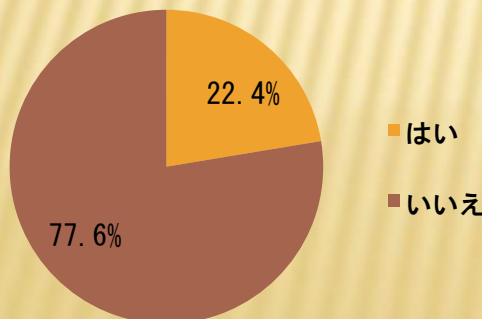
市民と森林をつなぐ国際森林年の集い

- × 参加者の7割が男性だが、参加者のうち、森林・林業関係者以外が大半を占める。（学生は1割強11.8%）。
- × 国際森林年認知率の高い層が参加（認知率 62.9%）

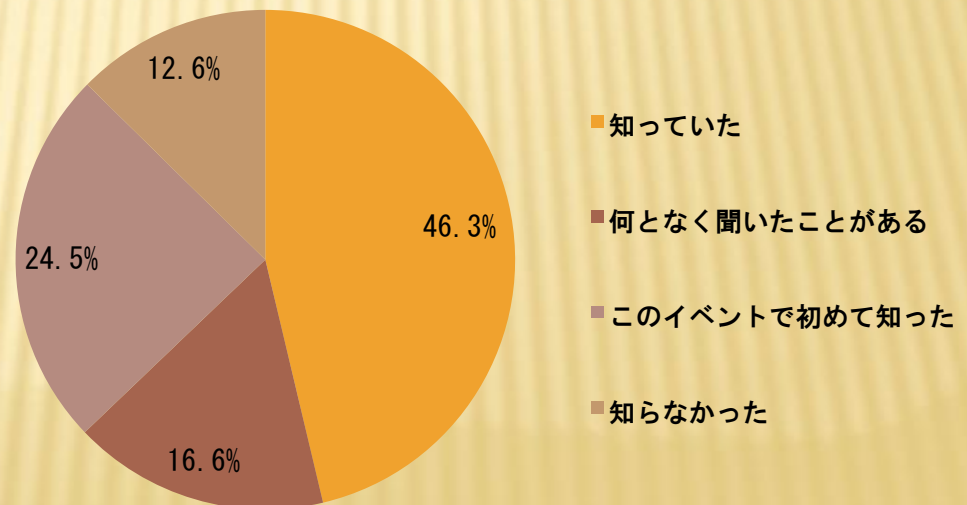
性別



森林・林業関係者ですか？



あなたはこのイベントに参加する前から、今年が国連が定める「国際森林年」であることを知っていましたか？



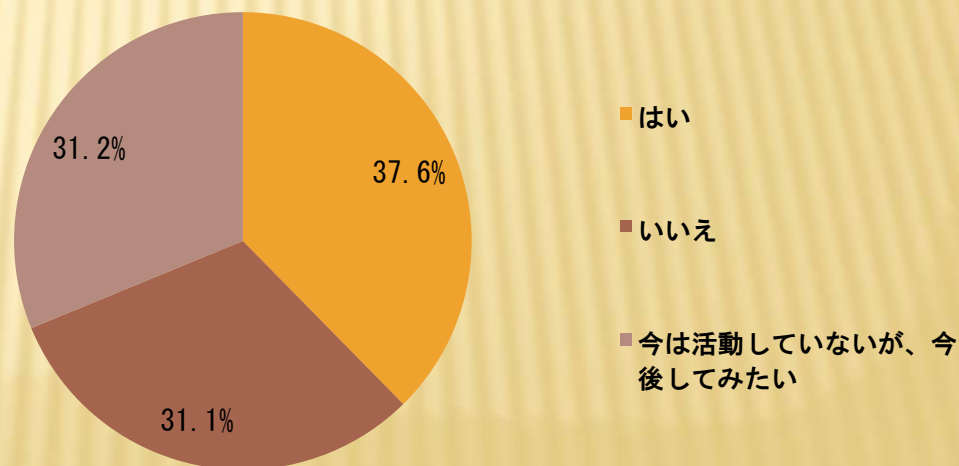
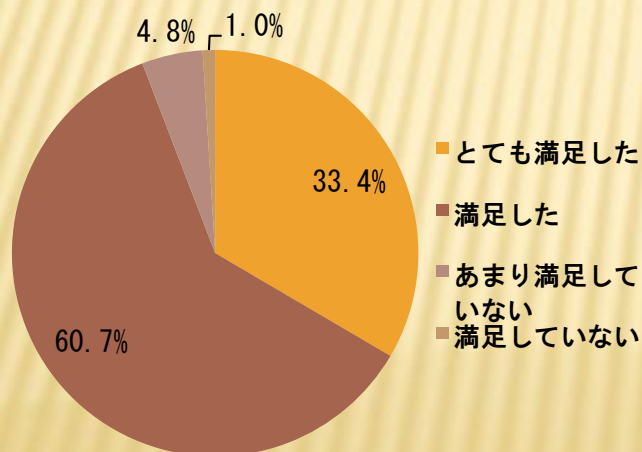
市民と森林をつなぐ国際森林年の集い



- × アンケート回答数1369通/ 参加者3710名 回答率37%
- × 活動参加者が4割弱、希望者を含めると7割弱が関心層。

現在、市民と森林をつなぐような活動をしていますか、
もしくは参加したことがありますか？

講演・シンポジウム



各地の展開例

- × 北海道紋別市では、東京都港区を始め、企業や都市、消費者との連携による森林・林業の振興に方向性が確認された。
- × 石川県では、国際森林年から生物多様性の10年に向けた継続性のある取組みに位置づけ。
- × 琵琶湖・淀川流域協議会（滋賀県、京都府、大阪府、近畿中国森林管理局）では、連携を活性化する方向。
- × 兵庫県宍粟市では、国際森林年を「宍粟市の森林空間再生元年」と位置づけ、森林施業、観光等への取組みを深めた。
- × 岡山県真庭市では、木質バイオマスを活用した企業との連携や森林・里山林の生物多様性と活用などが深まる。

得られた知見と展望

- × (知見)
- × 森林・山村を活用した先進的取組や優良事例、森の名手・名人の知恵や技術等が発表された（例：森林療法、ノルディックウォーキング、ホーストレッキング、持続的火入れ焼畑等）。
- × 大震災を受け、森林・山村のチカラが見直された（例：木質バイオマス活用、国産材仮設住宅、被災地支援、心のケア等）
- × 確認として、森林を歩くと、大人も子どもも笑顔になる。
- × (展望)
- × 森林の価値を国民に広く知ってもらうために、林製品のほか、生物多様性や温暖化対策、防災等の機能、健康（心と身体）、人材育成を含む教育等の効果も共感を得られる。
- × 森林・林業関係者がこれらの機能や効果を再確認し、森林・林業、山村への社会的関心や理解をもたらしたい。